

1~3月の展望**足元は調整局面、中長期的には五輪後も建材需要は旺盛で堅調****千葉製鋼(千葉県) 取締役常務執行役員 猪野 一世 氏**

鉄スクラップ市況は海外市場の軟化により調整局面へ移行する気配を見せている。しかし今年は一定の上げ下げはあっても一年を通して高値を維持するという見方が多い。また、2020年の東京五輪や都市部の再開発などの関係もあり、建材需要は中長期的に高いとの観測も根強い。総合建設業や鉄骨工事業など建設系グループ会社を持つスギモトホールディングス(本社=東京都足立区、杉本義幸社長)の金属リサイクル会社、千葉製鋼(千葉県船橋市)を統括する猪野一世常務に話を聞いた。

旧正月で短期的調整

鉄スクラップ市況は昨年11月から上昇が続いてきたが、中国などの旧正月入りを控え東アジア向け価格が下落してきている。米国玉などのトルコ向け価格も下落しており、短期的に調整が入ると見るのが妥当ではないか。2月の関東鉄源テンドーの結果で旧正月へ向けた方向性が見えてくるだろう。ただその後は今回の値上がりは国際相場主導ではなく国内相場主導だったことに表れるように、国内の建材需要が高いため電炉生産も高水準を維持するのではないかと考えている。

国内建設需要は長期化見通し

中長期的な国際相場は中国の動き次第で大きく変化する可能性があることを忘れてはならないが、国内相場に関して言えば建物解体や建設の案件が相当あると聞いているので中長期的に高値が続くのではないだろうか。よく「五輪後に国内建設案件は縮小する」という声が聞かれるが、当グループが事業を展開する首都圏では再開発などの案件が継続しており現時点では五輪後の建設案件の縮小は考えにくいと思っている。そのため建材需要も中長期的に高い状況が続くことから、建材を主に生産する電炉の原料となる鉄スクラップの需要も高い状況が続くだろう。

もちろん建設需要の高さは首都圏などの都市部に限ったものであり、地方も含め広域的に良い状況が続くか、小さな事業者も恩恵を受けられる状況が続くかは難しい。建設案件が五輪後も続く要因として、現在でも大きな問題となっている人手不足が挙げられる。人手が足りないので建設会社も案件を引き受けきれず長期化しているというのが実態だろう。

人手不足の問題の深刻さは建設業界も我々リサイクル業界も同様で、たとえば運転手は30~40代が理想だと考えているが人材募集に応募してくる人は55歳以上がほとんどだ。50代前半なら雇用すべきかとも考える。



猪野一世常務

また、社員の高齢化とともに、勤めた人間が数年で退職してしまうというケースも少なくない。将来を期待して経験を積ませてきた者が辞めてしまうのは現場の技術や経験の継承という観点からも深刻に考えなければならないことだ。

こういった人材難問題以外にも利幅の縮小、中国の動向がますます相場に大きな影響を与えるようになったことによる不安定要因の拡大、中国の雑品などの輸入規制にともなう国内での選別や処理の問題などもある。設備投資を抑えつつ変化していく環境にどのように対応するかも重要だ。当グループのもうひとつの金属リサイクル会社である協和興業(埼玉県八潮市)では当初、油圧シャーの入れ替えを考えていたが、オーバーホールで対応した。人材難問題も深刻ではあるものの、社員達も経験を積み良い仕事をしてくれるようになってきている。その社員達の働きに因應するためにも会社は将来的に安定した収益を上げ続けられるよう努力や工夫を惜しんではならないと考えている。

悲観せず将来を見据える

協和興業では一昨年、選別強化の一環としてナゲットプラントを導入し非鉄金属の扱いを強化した。千葉製鋼も協和興業も首都圏からの仕入れが多いため解体物の選別は重要だ。

また千葉製鋼では昨年、30トンのラフテレーンクレーンを導入し建物解体手法の変化から発生するがれき付鉄骨やCFT、PC板、大型機械スクラップなど、処理困難物の受け入れ体制を強化した。導入後、これらの処理の依頼を受けるケースも増えてきている。こういった物の処理をあまり得意としていない同業者の皆様も多いので、お困りの際はぜひ声を掛けて頂きたいと考えている。

千葉製鋼にはシュレッダー設備を保有しているので、この設備の有効活用についても考えていかなければならない。

雑品の問題や中国産鉄スクラップの輸出化など、我々が対応していかなければならないことは多いが決して悲観はしていない。作業の効率化や各種経費の削減、取り扱い品目の増加など、生き残りのためにやれることはまだまだある。

これまでも逆有償の時代、リーマンショック後の急落など多くの困難に見舞われてきた。だがそれらの危機を乗り越えてきたのが当業界だ。今後も工夫を重ね、「必要とされる企業」であり続けたい。